

第11回浅川流域協議会 要旨

日時：平成16年11月29日(月) 18:30-21:10

場所：長野市古里公民館 多目的ホール

会員数169名 出席会員数66名

1 開会

2 新規会員の自己紹介

・議長(佐藤座長)

新会員さんが前回の後から6名の申し込みがございましたので、順次、浅川流域協議会への思い入れなどを含めて、自己紹介をお願いいたします。

・自己紹介(172小口会員)

172番の小口と申します。長沼津野地区の区長代理を務めています。今回、初めてこの会に入れて頂きました。浅川ダムにつきましては、非常に長沼地区としても危機感を持っております。ダムの代替案について一刻も早く決定し、実行して頂きたいと望んでおります。よろしくお願い致します。

・自己紹介(173西島会員)

長沼大町の区長代理の西島と申します。浅川という治水の問題に対しましては、下流に住むが故に何時も見守っておりました。我々住民が安心して暮らせるような県よりの代替案を早く出して欲しいと思っております。よろしくお願い致します。

・自己紹介(176高見澤会員)

176番の高見澤睦彬と申します。赤沼の副区長を務めております。今回から浅川流域協議会の会員に加えて頂きまして誠にありがとうございます。長沼地区におきましては、浅川問題を解決しなければ明日の未来がないという気持ちで今後とも取り組んで参りたいと思います。よろしくお願い致します。

・自己紹介(177小林会員)

177番、小林孝史(たかふみ)と読みます。名簿の訂正をお願いしたいと思っております。長沼の赤沼出身です。昭和58年の大水害の時は消防団員として浅川の水防活動を徹夜でやった記憶がございます。今回、長沼地区の法被を預らせて頂き、団長として警戒にあたったが、昭和58年以降、河川改修されて、河床を下げて頂いたり、堤防強化や排水機場のポンプ性能の充実等で流れはよくなっているが、58年と同じ位の水量が流れたのではないかと現地にいて思いました。地域が安全で安心して暮らせるように皆様方の御協力により一刻も早く対策を講じて頂きたいと思っております。

また、最近、雷雨や集中豪雨によります洪水の際には水の出足がかなり早くなってきております。その点も考慮して頂いて治水対策をお願いしたいと思っております。よろしくお願い致します。

3 第10回浅川流域協議会要旨の説明

・議長（佐藤座長）

本流域協議会では、必ず前回の協議会の要旨を次回に配布させて頂いております。

新会員さん始め前回欠席された会員さんも是非今までの経過を踏まえる点からも資料等目を通して論議にご参加くださるようお願い致します。

4 議事

・議長（佐藤座長）

本日の議事は、(1)から(4)まで予定しています。(1)から(3)の議案につきましてはそれぞれ関連がありますので、一括説明を受けたいと思います。そのあと皆さんから質問、意見を受けたいと思います。

その後、前回に引き続いて(4)の浅川の流出解析の概要に関する意見を頂きたいと思いますので、よろしくお願い致したいと思います。

それでは、(1)「台風22号、23号における浅川の状況について」説明を受けたいと思います。

(1) 台風22号、23号における浅川の状況について・・・浅川 内山所長

皆さん今晚は、私は、浅川改良事務所長の内山寿長と申します。私から、台風22号、23号における浅川の状況について、ご説明させて頂きます。先程、座長さんからも話があったように、本年の日本列島は大きな災害に見舞われた。特に秋になり、大きな台風が後半に来襲したことは、私の記憶の中にもないことです。

まず、資料1-1をご覧ください。台風22号の雨量ならびに千曲川、浅川の水位の関係を示している。10月8日13時頃から降り出した雨は、9日の朝方一時やんだが、またその後降り出し、夕方まで降り続いた。長野観測所の総雨量は、72.5mmであった。最大24時間雨量は、8日の17時から9日の17時の間の67mmとなっている。ちなみに、千曲川上流にある野辺山での雨量は、150mm、また犀川上流の上高地では、110mmの総雨量となっている。

資料1-1下段をご覧ください。この雨により、ピンク色()で示している千曲川の立ヶ花の水位です。8日夜半から上がり始め、9日12時30分には、警戒水位の5mを越えている。9日15時頃5m35cmとなり、一旦下がり始めたが再び上昇し、10日の朝3時に最高水位5m68cmを記録した。これに伴い、浅川の水位も上昇したため、長沼の排水機場は、9日の9時30分から10日の朝2時10分まで、また、浅川の排水機場は、9日11時から10日11時まで運転をしている。浅川本川の富竹における最高水位は、緑色で示している線ですが、9日の16時で1m27cmを記録した。

この台風では、豊野町の石地区で、長沼2号幹線排水路から水が溢れ、9日の14時頃、畑や果樹園など3ha程が冠水があったと報告されている。

続いて、台風23号の状況です。

資料1-2をご覧ください。19日14時頃から降り出した雨は、20日9時頃から強くなった。21日8時頃まで降り続き、長野観測所での総雨量は、140.5mmとなっている。最大24時間雨量は、20日1時から21日1時の125.5mmとなっている。

また、浅川の計画雨量である130mmに対して、浅川の流域平均雨量は114.8mmで、これ

は約 1/50 確率となっている。この時の千曲川上流（野辺山）での雨量は、178mm、犀川上流（上高地）での雨量は 176mm の総雨量を記録している。

千曲川本川の水位の状況ですが、立ヶ花の水位は、20日の22時30分に警戒水位である5mを越えた。その後1時間に60cm～70cmの上昇を続け、21日朝4時30分には、危険水位である8m60cmを越えている。また、水位は更に上昇を続け、4時間後の8時30分に最高水位10m32cmを記録した。これは、立ヶ花の計画高水位10m75cmに、あと43cmと迫る水位となっている。

また、今回の降雨で富竹の水位は、20日23時に最高水位2.0mを記録している。これらに伴い長沼排水機場は、20日の19時から、また浅川の排水機場は20日22時から運転を始めたが、浅川の水位の上昇が続き、浅川樋門での内水位ですが21日0時には、計画高水位の5m50cmを1m37cm越える、6m87cmを記録している。

このことにより、下流では浅川本川からの溢水による浸水や、中流部においては、幹線排水路からの溢水による浸水被害が発生した。

資料1-3をご覧ください。濃い青色で示してあるのが浅川、茶色が国道18号、そして水色の示した範囲が浸水区域となっている。右側にあるピンク色は、新幹線の車両基地です。この浸水面積は、長野市が30ha、豊野町56ha、小布施町26ha計112haとなっている。今回、家屋への浸水はありませんでしたが、合流点付近で生コン工場の床下浸水があった。ここにある写真は、当日の21日の朝、撮影したものである。台風23号により、浅川流域では、本川、支川を合わせ、公共土木施設災害が14箇所、2億円程の被害を受けている。今スクリーンに写している写真が、マック上松コート裏の護岸が崩れた状況です。これについては、ご覧のように、仮応急工事を実施している。

また、上流の真光寺対岸の上松地区では、地滑りが発生しました。正面のスクリーンをご覧ください。このように数多くの亀裂発生しており、現在は、ブルーシートで傷口を塞ぎ、下の浅川沿いに土嚢を積み、地滑りを抑え応急工事が完成している。今後、来月から国の査定を受け、本格的な復旧工事を実施していく。台風22号、23号の説明は以上です。

（2）平成16年度河川改修工事の状況について・・・浅川 内山所長

引き続きまして、前回説明したが、今年度の改修工事のその後の状況について説明させていただきます。

資料-2をご覧ください。中流部中抜区間は、前回、三駒橋下流から五反田橋の間が4工区、また浅川橋から上流へ3工区、合計7工区の工事を実施するよう説明しましたが、その後、入札により差金が出てきたため、これらを有効に工事の促進に当てるとということで、浅川橋から五反田橋までの右岸側を残り5工区を追加発注し、中流部では、合計12工区で工事を進めてまいりたい。これにより、五反田橋から浅川橋までの右岸側が完成する。また、三駒橋から五反田橋の左岸側についても完成する。

上流部（吉田、稲田地区）については、2工区で業者も決まり、まもなく工事に着工する予定である。

現在の工事の状況について、スクリーンで説明させて頂く。上段の写真左は三駒橋から下流の状況である。ご覧のとおり矢板で仮設の仮締切りが済み、これから掘削に入る状況です。右側については、新幹線から上流の状況です。やはり同じような形で、矢板で締切りが終了し、床堀、掘削に入っている状況です。下段2枚の写真は、浅川橋から上流の状

況であり、ここも同じく仮設が済んでおり、本格的な床掘工事を実施している。

また、河床掘削ですが、資料 - 2 をご覧ください。茶色で着色してあるが、本年度延長で 2,600m、13,000m³ を予定している。既に 2,300m³ については掘削済である。

今後、本川、支川を合わせ、あと 2,800m³ 程の河床掘削が追加で出来ると考えている。いずれにしましても、河床掘削も今後継続して実施してまいります。

これらも、地域の皆様方に説明しながら、安全に予定通り工事が進みますよう努めてまいりますので、よろしく願います。

本年度の工事のその後の状況について説明させて頂きました。

(3) 内水対策に関する調査の方針について・・・河川課 坂田係長

内水対策に関する調査の方針について、説明させて頂く。お手元の資料-3 をご覧ください。内水対策については、平成 14 年度から 15 年度に調査した結果をこの流域協議会の場で説明させてもらったが、本日はその経過も含め、若干重複するが説明させて頂く。

資料の一番左上ですが、内水対策の目標は、この浅川で過去に最大に被害が発生した昭和 58 年 9 月の台風 10 号によって発生した内水である。この同規模の内水に対して、宅地部において床上浸水を防止することを内水対策の目標として掲げている。

検討の経緯ですが、これまでに検討し皆様方に説明した内容は、ハード対策として 3 つ資料に列挙してありますが、先ず、浅川の排水機場の増設である。今現在 44m³/s の能力のあるポンプが設置してあるが、これを 25m³/s 増やし、合計 69m³/s に増設する。

2 つ目として、放水路の整備を上げている。上流からの流入量の一部を現在の位置へ流すのではなく、千曲川へ直接放水する案を上げた。

3 つ目として、遊水地を設置するという事で、合流点より上流へ遊水地を設置し、出水時の流入の一部をカットすることにより、内水被害を軽減する。と前回この 3 つのメニューを上げた。今後は、組合せや経済的妥当性について検討すると報告したところである。その後、昨年 12 月の流域協議会において提言を頂いた。その中で、内水対策についても、いくつかの項目が盛られている。

今回の検討は、この内容についても考慮した上、調査内容を決めてきた。今回の検討の内容ですが、右側にフローがあり、真ん中に「検討フロー」というのがあり、一番上の基礎調査から項目が並んでおり、一番下に施設の概略設計までを順番に調査していくことになる。この中で、これまで検討した部分があるので、項目ごとに色分けしてある。緑で着色してある部分は、これまでに検討したが、更に検討する項目である。黄色で着色の項目については、前回検討したので、今回は特に検討しない。青い色の検討項目については、前回の検討を更に進めるために、今回新たに行う項目である。

今回、主に検討する部分を重点的に説明させて頂く。基礎調査の項目ですが、これまでの検討において、地図を判読し机上で行ったが、今回は精度を高めるため、現地で実際に測量を行い地盤高を出す作業を実施する。また、現地で測量した地盤高別に土地の利用形態や資産状況を把握する。今回台風 22 号、23 号により、被害があったが、これに関する資料の収集や最大の被害のあった昭和 58 年との比較を基礎調査で実施する。内水特性の把握、内水処理方式の検討、検討対象内水の選定は前回のものを使っていきたい。

次の項目の内水解析モデルの作成は、今回の台風 22 号、23 号の状況を解析モデルで検証していきたい。内水処理施設計画の検討は、内容的には前回と変わらないが、データ

等が変わる部分があるので、再度検討していきたい。今回は、施設の概略規模を算出するところまでで終わっている。

経済効果の検討は、先程説明した、基礎調査で行った土地利用及び資産の把握のデータを使い、想定被害額の算定や対策を行うことにより、どれだけの経済効果があるのかの検討を行う。

以上の検討を踏まえ、内水対策を行うには、どのような方式が適当であるかを選定して行く。内水対策は、処理方式の選定で決まると思うが、複数の施設を組み合せたり、一つの施設を暫定的に実施し、当面の効果を上げてから最終目標の整備を行うなど、このようなことが必要になると思われるので、段階的に整備するにはどのような方法があるか、その下の項目で検討する。

以上の検討を踏まえ、最終的に内水対策で行う施設の概略設計を行うのが、今回の検討の内容である。

これまでの検討で利用できるものは利用し、精度を高め、今回の台風の影響を考慮する中で、検討を進めて参りたいと考えております。

・議長（佐藤座長）

ただいま（１）から（３）まで、それぞれ説明をして頂きましたが、会員の皆さんから質問等を受けたいと思いますので、挙手の上、会員番号とお名前を言って頂き、発言をお願い致します。

・質問（49 前島会員）

台風23号の日雨量について質問させて頂きたい。私ども浅川のダムがらみで、100年確率で日雨量130mm、450m³/sが基本数値となっているが、この10月20日の台風23号においては、長野市において日雨量125mmが出ています。ところが、この周辺（20km範囲）に長野市、長野県、気象台の観測地点が25箇所あり、一番肝心な長野県で観測している浅川のデータが出ておりません。これの理由について、何か故意に隠されているのかどうか伺いたい。

・回答（浅川：内山所長）

ご指摘のとおり、台風23号の時に浅川の雨量計が動きませんでした。これは、誠に申し訳ありませんが、私どもの整備不良で雨量計が観測できなかったためであり、特に隠しているわけではない。

今回の雨量は、今まで使っていた飯綱の雨量を使用し、流域平均雨量を出している。

・再質問（49 前島会員）

長野市は16観測地点、全てがクリアーしている。気象台も5箇所、全て細かい数値が出ている。長野県は6箇所の内3箇所が未計測？数字が出ていません。これは、どういう訳なんでしょうか。

・回答（浅川：内山所長）

今申し上げたとおり、機械の整備不良で誠に申し訳ありませんが、観測ができておりま

せんでした。

・再質問（49 前島会員）

機械が3箇所一度に整備不良になるのですか。これが出納長、長野県の実態ですよ。1箇所では3台の機械があるわけではない。場所が6箇所散らばっていて半分以上が動かない。ということなんですか。

・回答（浅川：内山所長）

私どもの流域内の観測の中で、浅川観測所は整備不良により観測できませんでした。誠に申し訳ございませんが、そういう状況です。

・再質問（49 前島会員）

浅川、地蔵、松代、寺尾とこんなに散らばっている所でできていない。次に知事は5年間の流量観測を経て、基本高水を再検証すると言っている。1年間ができないのに、どうして5年間ができるのですか。今後の対応の仕方についてお答え願いたい。

・回答（浅川：内山所長）

今回の台風の時には、浅川局の雨量がとれていなかったが、浅川で観測している県「飯綱」観測所の雨量計は動いていますので、そのデータを使っています。今後この様なことのないよう努めてまいりたいので、ご了解をお願いしたい。

・質問（3 山岸会員）

ダム計画の基礎になる雨量は130mm/日、合流点の基本高水流量が450m³/sであるが、125.5mmは、百年確率にほぼ近い雨量であったと思うが、この場合の合流点における流量を教えてください。

・回答（浅川：内山所長）

雨量については、長野で125mmですが、流域それぞれの流域の面積割合で平均すると、114.8mmとなっており、百年確率130mmに対して1/50の確率となっています。私どもで観測している富竹の流量ですが、2.0mの最高水位を記録していますが、これは、約43.8m³/sの流量です。また、合流地点は内水で流れないため、観測はしていません。これは、上流の富竹での流量である。

・質問（3 山岸会員）

450m³/sの時の富竹での流量はどのくらいと計算されているのですか。

・回答（浅川：内山所長）

富竹では基本高水が260m³/sです。

・意見（3 山岸会員）

今話を聞いていて、もう一度検討して頂きたいのは、基本高水450m³/sは余りにも

高過ぎるのではないかと。今回の23号台風がこのことを証明しているのではないかと思います。ご検討ください。

・意見・質問（31 神戸会員）

浅川のかつて天井川だった一番近くに住んでいるが、これまで20年間に2回の大水が出て、炊き出しなどをした。今回は、過去最高の雨量が来たのではないか。それでも、改修され10m以下に下がっているから2m以上余裕があり、悠々と流れておった。従来の心配がなくなっている。

そこで考えるのは、浅川の山の方から流れて来る水の量は、前回も（4番）小林会員から意見が出されたが、約7割以上は都市の集水、山の方は3割程度であり、今度の雨で浅川を見ていると上流は2mも余裕があって、下流へいくとドッと水量が増えているというのは、都市部における開発、特に長野市東北部一帯における都市開発によるものです。今まで田んぼであった所が住宅に変わってきています。都市開発が進んでいることによって、上流から来る水よりは、都市部に貯まった水が一気に下へ押し流すということが下流水害の一番大きな問題の一つではないかと思えます。

この様な状況の中、上にダムを造っても何の意味も無く、むしろ7割近い集水域を持つ都市部から流れ出る水をどうするか。この点での県の分析は誠に粗末ではないかと思う。今度の状況を見ると、千曲川からの問題が一番であるが、都市部から一気に水が出ること等からもっと具体的に問題を分析し、貯水池や遊水地、各戸貯留等出来るところから具体的に着実に行って、一気に水が流れ出ないように本格的対策を講じないといけないのではないのでしょうか。

以上、その点での意見と質問をしたいと思います。

・回答（田中河川課長）

都市流域からの流出を防ぐ対策についてですが、今年度、新規事業で各戸貯留施設への補助事業を実施しており、現在、37戸の申し込みがあるという状況です。出来るだけ多くの皆さんに御理解頂く中で、流域での流出抑制をお願いできればと思っています。

また、雨と流量の関係についてですが、雨の総量と流量は必ずしも一致しない訳で、一つには雨の降り方ですが、短時間に集中的に降る場合は流量が増える。これについては、これまでも基本高水流量算定の際にも議論し説明してきたところでありますが、今回の台風23号は、最大時間雨量が15mmで、トータルすれば百二十数ミリとなる大きな雨でしたが、雨の降り方によって水の出方が違ってくるということを御理解頂きたい。

また、市街化が進む中で下流域からの出水が多いと言われておりますが、流域全体での色々の対策等も必要と考えています。

・意見・質問（138 小林会員）

二つほどお尋ねしたい。富竹でなぜ測るのか。先程来言われてる、新田川、駒沢川、田子川から水が出て、恐らくこの下流で水位を測らなければ何の意味もないと思います。

22号、23号台風であれだけ雨が降っても苦にならないではないか・・・、と言われますが、私共は、浅川の際にずっと住んでいるから知っていますが、改修される前には、三十分も豪雨があると直ぐに満杯になって流れる程でした。今、恐らく1時間も集中豪雨

があれば、皆さんとぼけたこと言っていますが、紛れもないそんなことではすまされませんよ。最近そこら中で予想外の雨が降っているでしょ。450m³/s を下げるのではなく、上げるくらいしないとダメですよ。以上

・回答（田中河川課長）

今のご質問の、富竹で流量観測を実施している理由ですが、千曲川のバックウォーターの影響が五反田橋の上流あたりまであったり、土砂の堆積や河床洗掘などで河床変動があると正確な流量が測れないことなどから、県の方針が出された後、平成15年1月に設置、観測をするに当たって、場所の選定をしております。

・再質問（138 小林会員）

確かに五反田橋の下は千曲川の影響で溢れてきますが、中央橋の少し下あたりでやらないと水位が2m何てそんな生易しい状況ではないと判るんじゃないかと思います。もう少し検討して下さい。中央橋の少し下あたりなら、そんなに下から貯まってきませんから。

・回答（田中河川課長）

中央橋と富竹ではあまり距離的に離れていないかと思いますが、今までと場所を変えて流量の測定をしますと今までの調査結果と整合が取れないので如何かと思います。意見として承っておきたいと思いますが、考え方とすれば富竹での流量観測を続けて参りたい。

・質問（161 野々村会員）

三点ほど質問したい。先程パワーポイントで説明されましたが、上流で地すべり（上松）が発生していたり、マック上松（マンション）の裏で護岸が崩れたりしているわけですが、そこは未だ改修が済んでいない所ですね。上流の改修は平成17年度以降となっていますが見通しはどのようなのでしょうか。

二つ目は、長沼幹線排水路から溢水した量が多かったかと思うのですが、長沼排水機場や浅川排水機場においてトラブルが起きています。それはゴミが原因であったと聞いております。ポンプアップの能力を最大限活かしていけば、もっと被害を少なくすることができたかと思いますが、その辺どの様に分析されて、今後どんな対策を立てられようとしているか伺いたい。

三点目は、本日説明のあった内水対策のフローについてですが、時間的なスケジュールはどのように考えているか伺いたい。

・回答（浅川：内山所長）

一点目についてはご指摘のとおりマック上松（マンション）裏は未改修となっています。現在、災害復旧については応急的に仮工事で対応しています。12月に国の査定を受けて本格的に復旧を行って参ります。

なお、この箇所は大変狭窄部となっていますし、上流にも狭窄部が存在しますので、来年度、この上流までの間を調査し、次年度以降早い時期に工事に着手していきたいということで県の方とは相談しています。

また、排水機場のゴミの問題についてですが、私共も現場で確認しています。秋の枯れ

草の時期に台風が重なったことでもあります。今後詳細な因果関係についても内水対策の基礎調査の中で、含めて検討していきたいと考えております。

・回答（田中河川課長）

内水対策の時間的なスケジュールについてでございますが、平成16年度に調査の委託を発注して参りますが、なるべく早い時期に成果をとりまとめて参りたいと思います。

対策のスケジュール的なことは現時点ではまだわかりません。

・質問（54 山岸会員）

浅川左岸の田子川と三念沢の間（通称ドブという）場所で浸水したが、あの排水ポンプ（長沼排水機場）はどうなっていたのか伺いたい。

・議長（佐藤座長）

長沼排水機場のポンプの運転につきましては、資料1-1、1-2に記載されていますが、ゴミのトラブルのことがありましたので、関連の質問をどうぞ。

・再質問（54 山岸会員）

ゴミのことに関連しますが、一番多く引っ掛かるのは「草、ナイロン、ビニル系等」、これらは大量に発生していますので、環境面からもお願いしたい。

・関連質問（62 土屋会員）

関連して浅川排水機場についてですが、23号台風の際、非常に多くのゴミが流れ、流木も引っ掛かり、除塵機も運転しているんですが機能しなかった。一時的にポンプを停止させて、木の根っこ等を排除しながら作業したということで大変な労力が掛かっていた。

よく指摘されているように、これは農地防災の排水機場であって、長野平土地改良区で管理をされているが、実際には豊野町役場の職員や豊野町の消防団が交替しながら、大変ご苦労されています。それを、県の皆さんはご存知なのか。どの様に考えて居られるか。

また、計画の中に、上流・中流の方でゴミを取り除く様な構造の施設が必要ではないかと思うが、示されていないのでは。その点についての説明をお願いしたい。

・議長（佐藤座長）

長沼排水機場はどうであったかという質問と、ゴミの今後の対策についてですが、お願いします。

・回答（田中河川課長）

長沼排水機場の運転についてでございますが、台風22号については配布資料1-1の下表に、浅川排水機場の運転が10月9日午前11時から10日午前11時まで、長沼排水機場は9日午前9時30分から10日午前2時10分まで運転したとの記録です。

また、台風23号の時ですが、資料1-2をご覧頂きますと、長沼排水機場の運転は、10月20日の19時から運転を始めておりますが、終了がはっきり確認できてないとのことで、点線で示してございます。何れにしても、この様に運転を行っております。

・回答（青山出納長）

出納長の青山です。台風23号の状況につきましては翌21日の朝、浅川排水機場及び長沼排水機場の現場を見て参りました。

ゴミの問題ですが、浅川排水機場の運転管理者の方からもその場でお聞きしましたが、ゴミが多量に流れてきて、除塵機では間に合わないとの状況で、大変悩みをおっしゃってました。その様なことから対策として、ゴミを除塵する手前でもってストップする方法も検討しなければならないと率直に思いまして、これも先程お答えしましたが、内水対策の中で検討する大きな課題としてやらせて頂きたいと思っております。

長沼排水機場につきましても運転の状況は確認しておりますが、このゴミの対策とポンプの関係は、何れに致しましても台風23号の教訓として、私共、大きな課題として考えていかなければいけないと思っております。

・意見（12 清水会員）

今度の台風による水害につきましては、実は24日に長野市長が合併の問題の説明に来た際に、別件で浅川の問題についても意見交換させて頂きました。私は誰よりも浸水の苦労、体験をしていますが、今までの災害の歴史の中で、浅川の上流・中流での被害はあまり無いんですね。ダム建設は従来の考え方から、ダムを造れば国の補助が大きく、業界が潤すからといって始めた仕事だと思う。

今回、豊野町の左岸、小布施町、長野市赤沼などは大変な被害に遭った。新幹線車両基地からの眺めでも、大きな湖の様で、しかも、土砂の堆積も多いところで40cm位、私の田んぼも土砂で埋まり耕作出来ない状態となっている。この様なことは何回も経験してきている。この様に、浅川は千曲川の増水によって被害を被る訳で、ダムとは無関係である。現在、新幹線の橋脚工事を行っている立ヶ花（新幹線橋梁）から上流の鳥居川合流点までの約2km間には、川幅100mの内40mで土砂が3m～5m堆積している訳で、これを取り除くことは下流の人たちに迷惑が掛からない。よく検討して頂き、早急に浸水被害を無くして欲しい。

・（島田土木部長）

土木部長の島田忠明と申します。今のお話の様に、内水対策というのは千曲川の水が一番大きく関係してくる訳で、ポンプを設置するにしても、ある程度千曲川の水位が上がってしまうと効果が出ないのが現実でございます。現在、下流の飯山市の方で、国直轄事業で何箇所か護岸工事等行っているのが現状で、私共も、浚渫等効果のあるところにつきましては国土交通省の方へ強く要望をして参りたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

・意見（4 小林会員）

浅川の維持管理の問題ですが、河川管理者である長野県が維持管理を行っていらっしゃいますが、雑草の除去或いは浚渫、河床整理をすることで、出来るだけ流れ易くするようにと申し上げたつもりですが、誠に残念ながら今回2度の大水が出て、一定の浚渫はして頂いていたが、一番大事な未改修部分の雑草の除去が殆どやられてなかったのが、それが

みんなゴミとして排水機場へきてしまった。台風23号当日から翌日にかけて見て回った時に、県から頼まれた方々だと思いますが、水の過ぎ去った後で草刈りをやっていました。

私共も、幾らでも協力しますので、是非、県の皆さんに維持管理をもっと責任ある立場を執ってやって頂きたいと思う。

雨量観測と流量観測についてですが、機械の故障等では行政の責任として答弁にならないことです。非常に大きな雨が降ったにもかかわらず、調べられないなんてことは、とんでもないことです。責任の所在を明確にして下さい。

それから水位観測地点ですが、「富竹地点」が1箇所というのは問題だと思う。富竹だけでなく、支川との合流地点や浅川排水機場の所まで500m間隔位でキチンと測るべきです。浅川の問題は、これだけ揉めて長い間時間を掛けてやっているにもかかわらず、富竹の1箇所というのはおかしい。一番危ないのは富竹の辺りから長沼にかけてで、一番水の貯まりやすい危険な場所の水量を測らないで、ダム計画を持つなんてことは、出鱈目といわれても仕方ないことです。

浅川については、前々から言っていますが、一番大事なことは先ず、天井川を無くすこと。これはやって頂きました。誠に有り難いことです。

それから、今回、地すべりのあった上松と真光寺の間から上流についての土砂災害です。地すべりや土砂崩れの対策が、浅川の最大の対策の一つです。そこから下流については、洪水の対策をとるべきであって、そんな肝心な所へダムを造っても対策にならない。

私共がこういった検討をするにつけても、県にキチンとした資料を出してもらいたい。例えば基本高水流量450m³/sには問題がある。何の証拠もない出鱈目な数字だと前々から言っているんですから、今回の22号、23号台風に関しては、市や気象台の観測資料等もあるのだから、それらを参考にして、改めて数字をはじき出して頂きたい。

・(浅川：内山所長)

草刈りにつきましては、全河川を県が全て行うというのは非常に難しいことでして、地域の皆さんに御協力を頂きながら実施しておりますが、特に、流れに支障を来す場所等については優先的に今後も実施していきたいと考えておりますので、よろしくお願ひします。

・議長(佐藤座長)

このあと、休憩を取ってから、前回に引き続き「流出解析」に伴う意見を皆さんからお聴きして参りたいと思ひますので、よろしければ、もう少し質問、意見があれば出して頂き、ここは閉めたいと思ひますので、お願ひします。(質問予定者8人あり)

・質問(20山口会員)

内水対策について、資料-3に書かれているように、目標として「床上浸水を防止する」と書いてありますが、「床下浸水は仕方ない」ということでしょうか。

・意見(9神田会員)

先程のゴミの問題について、ビニールとか発泡スチロールが沢山あるとのことですが、私達ひとり一人が使わないようにしたいし、して欲しいと環境の方からお願ひしたいと思ひます。私達の川であり、私達も努力してゴミを出さない様にすることも、非常に大

切であるということをご皆さんに強調したい。

それから、県の方をお願いしたいのですが、川の工事をしている業者さんがゴミを捨てている状況がある。小さいことかも知れませんが、多くの方がしますとゴミが貯まっていますので、工事を発注したときには業者の皆さんにお話して、ゴミを持ち帰って頂くよう言って欲しい。私共が言っても怖い顔をされますので、行政側からモラルを守る様に、お伝えしたいと思います。

・質問・意見（49 前島会員）

先程、長沼排水機場のポンプ運転時間が判らないとのことでしたので、私、赤沼区長で立ち会っておりましたので、報告させていただきます。

1号機が19時間、2号機が19時間10分、3号機が24時間5分、4号機が24時間となっております。

それからゴミの問題が出されておりましたが、県では、浅川排水機場の全体のゴミの量について把握されていますでしょうか。

私共、豊野町の御協力で、バックホウを3台入れて頂き、消防団まで動員して頂きましてゴミの片づけを行っております。

・質問・意見（6 竹内会員）

昭和57年・58年以降で、25年から30年サイクルで大水が来るということを前の協議会でも言いましたが、それがたまたま今年になった。この2、3年で大水が出ると言った筈です。そういうことを踏まえて雨量計が壊れたということについては余りにも御粗末過ぎると思います。

それから、支流の時間での時系列による流量について教えて頂きたい。それから、排水機場の増設に係る経費については県で持つのかお聞かせ願いたい。

先程どなたか申されましたが、実際に雨が降ると直ぐに水が出て来るとことの裏付けですが、豊野町の公民館に井戸があり、昭和49年から58年の間に2.5m程水位が下がっています。昭和58年以降は観測が無いので判りませんが、2.5m水位が下がっているということは、雨水が浸み込んでいないので、出る量が多くなっているということです。そういったことを調べてあるかどうか。実際には調べてないと思うが。

それから、ゴミの問題に関してポンプの話が出ましたが、30m³/s ポンプアップする際、相当のゴミが除塵機に引っ掛かることになり、実際にはポンプは動いているが水は出ていない状態になっていると思う。

また、千曲川の水位が上がってしまうと、最初のポンプでは2.1mしか浅川から揚がりません。それ以上は揚げることはできないのです。30m³/s のポンプについては4.4m揚がるが、それ以上は揚がらない。今回は、あと50cm 千曲川の水位が上がってしまったらポンプは一切運転できなくなる。そのことについても県は考えているかどうか。

なお、現場で県のある担当者の方が業者と話をしていたのを聞きましたが、「土木部も全然ダメだ、資料も持っていないし、ましてや流域協議会の人は持っていない」との発言をしておりました。そういうことについても調べておいてください。

今の回答については後日で結構です。

・要望（124 中沢会員）

本日は内水問題についての意見が多く出されているところですが、先程来、お聴きする中で、ダムは一部業界のために建設しているということをお申されておりましたが、この場で発言されるのは問題かと思う。

我々の先輩方が当局の県土木部その他国との折衝の中で、優良農地が河川のために大幅に潰れることをしないで、出来るだけ安全にということで「ダム建設」が最良の案だということで進めて来られたと理解している。

内水における災害は下流が被害を被っている訳であるから、とにかく上流に貯めることが必要でございます。下流の千曲川が改修できれば結構ですが、下流の新潟県の関係もあり簡単にはいかない訳ですから、前回の協議会でも河道内遊水地の案について資料も出た訳ですから、とにかく上流に貯めるべき案でお願いしたい。

また、11回目の協議会になります中々具体的な線が出てこなく、いつも検討、検討ということでいつになるのか判りませんが、何年でというようにこの辺で区切ってはどうかと言う意見もありまして、全くそのとおりで、検討もいいですが目安を付けて検討して頂きたいと思えます。

・要望（125 寺島会員）

台風23号における下駒沢の実態を申し上げますが、21日の朝1時半頃がピークであったかと思いますが、神楽橋の上流付近でかなり水位が上がり、あと僅かで堤防まで来そうな状況の中で、住民は心配しながら「区長、いつ避難したらいいのか・・・」といった電話が来たり、叱られたりしてしまして、ずっと堤防の上で川を見ていました。また、神楽橋の下流150m付近でも近所の住民が心配して、車の中で寝ずに水位を見ながら警戒をしていた状況もありました。この様な実態も知って頂きたいと思えます。

また、これまで話を聞いていますと、大分前にも議論した話や意見が出ている感じも致しますし、平行線を辿っているような感じも致しますので、少しでも進展した考え方で進めて頂けるようお願い致します。

・意見（27 内山会員）

二つほどお願いしたいと思えます。一つは浅川の治水における基本高水450m³/sの流量についてですが、今までに基本高水流量は計算で出され、論議されてきている訳ですが、本当に果たして正しいのか、根拠があるのかどうかという様なこと。もう一つは、前回の第10回流域協議会で出ました「6+3案」の代替案で、主に6案についてです。

このことについて、本日、資料1枚（A4版）にまとめて持参致しましたので、休憩中に配布して頂き、そのあと説明させて頂きたいと思えますので、よろしくお願い致します。

・議長（佐藤座長）

わかりました。このことにつきましては、議長の方で処理させて頂きますので、あとで配布させて頂きます。

・意見（57 武田会員）

台風23号の後に地震がありまして、ダムを反対してきてよかったと痛感した次第です。

また、千曲川の増水状況については初めて見させて頂きました。一面に川幅一杯に水が貯まった状況を見て参りまして、以前に本流域協議会で、(16)山口会員さんが内水対策について非常に良い案を出されていたと思います。あの案が、今回の台風に対する内水対策に活かせば防げたかどうかということ、一度県の方で検討して欲しいと思います。

・意見(134 田嶋会員)

内水対策で、第6回の流域協議会で会員(16 山口会員)さんから遊水地の案(赤沼新幹線車両基地と浅川右岸の間)が出されましたが、前から大変優れた案だと思っていたところで、丁度、今回の冠水で一番水の貯まった箇所と一致しておりました。

今は、減反も沢山あるわけですし、しかるべき補償もして必要な面積を確保するというようにしながら対策を講じていくことが現実的で効果があることだと思います。

・議長(佐藤座長)

ありがとうございました。それではこれで(1)から(3)に関する質問・意見を打ち切りたいと思います。124番、125番の方は要望、27番の方は後ほど資料配付の対応を致します。20番の方から以降、県の回答をお願いしたいと思いますのでよろしくお願い致します。

・回答(田中河川課長)

(20 山口会員)の質問に関してですが、内水対策の目標について、確認ですが、配布してあります資料-3にありますように、過去最大の被害をもたらした昭和58年9月の台風10号での内水と同規模の内水に対して、宅地部での床上浸水を防止することを目標としております。

それで、検討の経過の中にも、これまでの検討結果として3案記載してございますが、目標としては上記の記載のとおりです。これについては、既に本流域協議会の中でもお示ししてありますが、これをベースに考えておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

・再質問(20 山口会員)

それでは納得できないんですが、流域協議会からの提言を踏まえてということの中で、目標設定して頂かないと、前から進歩していない。ハード対策として3案ありますが、排水機場の増設として25m³/sなんてケチなことってないで、50m³/sや100m³/s増設することはできないのでしょうか。

・回答(田中河川課長)

当初14m³/sであったのを昭和58年の災害の後30m³/sプラスして44m³/sに増強していますが、これは、千曲川の沿川では最大規模の排水機場となっています。他にも篠井川等の機場もありますが、ただ排水機場を大きくすればそれでよいかといいますと、経済効果の面や千曲川本川の計画水位との関係から排水が出来なくなるといった問題もありますので、一概にポンプの増設のみとは成り得ません。

提言にあります「宅地30cmの冠水ではなく目標を0cmとすべき・・・」といった意見

は承知しておりますが、浅川一つの問題ではなくして、地域全体の中で考慮しながら決めていかなければならない訳で、少なくとも床上浸水は防止したいという考えです。

・回答（浅川：内山所長）

排水機場のゴミの量については把握しておりませんが、ゴミの撤去作業や撤去後のゴミの山は承知しております。今回の内水対策調査の中で、ゴミの対応も考えていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

・回答（田中河川課長）

流量の時系列での変化についてですが、資料1 - 2（台風23号）の下の表に緑色で示したのが、20日～22日にかけての浅川における「富竹地点」での水位グラフですが、最高水位が2.0mでございます。その時の流量が約44m³/sであったということでございます。

それから、排水機場の経費についてですが、平成14年4月に国の方から内水対策の取り組みについての文書が出されまして、内水対策のための調査、計画作成は支川の河川管理者が主体で実施するということではありますが、実際この排水機場の整備をどちらが行うかは協議によることとなります。今回、この排水機場の整備についても、同じ県の中でもどこがどういう形でやるかといったことを含めて計画の中で詰めていくことになろうかと思っております。現在、どこがどうやってやるかは決まっています。

・回答（浅川：内山所長）

ゴミの問題で、先程、工事現場で空き缶等を捨てているという指摘がございましたが、今後、その様なことの無いよう、十分注意して参りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

また、流量の観測についてですが、支流については観測しておりません。

・質問・意見（6竹内会員）

流量については5年間かかって調べるということになっているので、今回、こんないい雨はないと思うんですよ。観測を総出でやったって測れた訳ですよ。こんなよい機会を逃して、あれやりますこれやりますという問題ではないと思っておりますよ。支流のデータを欲しいというのは、調べたのかどうかを聞いたから質問したんですよ。だから県の多分戦略局の方だと思うんですが、土木部の方ダメだと言っていることの意味が判った。

二日間の日当でどのくらいかかるの？ せっかく流域協議会でみんな集まって、夜の9時までみんな無料で出ている訳よ。皆さん方は残業手当が出る訳だ。そういうことを踏まえてどうして出来なかったか。その辺をはっきりしてもらいたい。

・回答（浅川：内山所長）

先程言いましたように、今までの経過から、私どもが流量の観測を行い検証しようとしているのは、富竹と北郷の2箇所で行うこととしておりまして、そこでの実測に基づき、先程申し上げましたように富竹では44m³/sという数字が出ております。

各支川全部で行うことにはなっておりません。

・質問・意見（4 小林会員）

北郷と富竹の2箇所だけしか測れなかった。その他は測る必要がなかったということですか。

今、浅川でどこが一番問題かということ、富竹から下流で水が溢れるかどうかということが一番心配なんです。その間で何箇所か水位標を設置して測るとか、出向いて測ることが河川管理者の責任ではないのでしょうか。それも測らないでいて、今日の提案をされても私ら信用出来ないんですよ。「基本高水の450 m³/s だって出鱈目じゃないか」というふうになっちゃうんですよ。私は450 m³/s を何でもかんでも下げろといってるわけではなく、納得のいく河川対策をやって欲しいと申し上げているんです。

雨が降っていても観測しに行けばいいじゃないですか。どうして行かなかったのか？必要性を認めなかったのか？教えてください。必要性がないということになれば、河川対策をやる気がないといわれてもしょうがないですよ。

・回答（浅川：内山所長）

流量観測地点がなぜ富竹かということ、下流へいきますと千曲川本川のバックの影響が生まれて浅川本川の流量というものが観測できない点がございます。そこで、影響のない富竹に設置をしてございます。

・議長（佐藤座長）

ここで、5分間休憩といたします。

（再開）

・意見（56 桐原会員）

事務局と座長さんの方に提案させて頂く。先ず、会員の名簿が作成され配布されているが、ここに簡単な住所を入れて頂きたい。そうでないと何処の何方が発言されているのかわからない。それから、第1回協議会で協議会設置要綱を基に作成した「浅川流域協議会会則」を毎回添付して頂きたい。会議は、この会則に則って議事を進めて頂きたい。また、事務局では会議要旨に誤字等の無いように（例えば、第10回要旨の9ページ下から15行目、“乗っ取った”は、“則った”である）。それと、県がすぐ回答ができないものは次回にするとか、具体的な回答をすることによって話というのは進むんですよ。前回出た話で、回答を次回にしてくれとかこうしてくれとかいうことは、どこまで進みましたとかこうなっていますということから始めて今回の本題に入って頂きたい。そうでないと、意見が行ったり来たりして、何回協議会を行っても進展がない。協議会も十回目ともなれば一つの節目でもありますから、もっとしっかりやってもらいたい。

・議長（佐藤座長）

ご最もな意見です。会員の皆さんの名簿の件、進め方の点については反省します。

皆さんと一番最初に会則を作って、この協議会をどう進めるかという時に、お互いにより良い方向を見出すために協議していこうと言うことが本協議会の趣旨でありました。

流量、雨量の観測については、キチンと県の方から答弁を頂いて次の問題点に移っていきたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。・・・異議なし。

・意見（16 山口会員）

一点お願いしたいのは、一つの意見を出されて「私は、ダム反対です。」ということだけではダメで、ダム反対であれば、「私は、こういう案を提案します。」ということを経験にやってみないと、前向きな議論にならないので、この点について一つお願いしたい。

また、今日は土木部の皆さんが非常に沢山質問を浴びておりますが、実は、現在の排水機場というのは地方事務所の管轄下です。地方事務所が、農業用地を湛水防除するために排水機場を造っているところですが、浅川の水そのものをポンプアップするのであれば、土木部でしっかりしたものを造って頂くという考えになりますので、この点も県当局十分協議して頂いて、遺憾のないようお願いします。

・議長（佐藤座長）

第6回協議会で、山口会員(16)から内水対策案の提案が出され、パワーポイントを使って説明を頂きましたが、そのことについて、今回の23号台風の被害状況から見ますと非常に良い案ではなかったかな、という意見がありました。本当はこの様な意見を一つひとつ深めていきたいと思っています。これについては次回からまた検証して参りたいと思いますが、本日はご意見だけ承ることでお願いしたいと思います。

また、内山会員(27)さんから提言のありました意見については、皆さんのお手元に資料を配付をさせて頂いておりますのでお願いしたい。

・回答（内山浅川改良事務所長）

雨量について、一点、皆さんに再確認で詳細を説明させて頂きたいと思いますが、指摘のありました雨量局が観測できなかったのは事実ですが、今回、私共が計画に用いております雨量は、「飯綱（長野県）」、「長野（気象台）」、「三才（長野県）」のデータを基にした計画でありまして、今回の23号台風の時にも、この3箇所の観測所につきましては正確に観測が出来ており、先程説明致しました114.8ミリという雨量は、それらの観測データを用いたものでございますので、よろしく申し上げます。

（4）浅川の流出解析の概要に関する意見等について

・議長（佐藤座長）

それでは、議事（4）につきまして、前回に引き続き浅川の流出解析の概要に関する意見を皆さんからお願いしたいと思います。なお、資料については前回の第10回協議会で配布させて頂いております。本日、パワーポイントでもお示しできますが、資料がない方は事務局まで申し出て下さい。それではお願い致します。

・意見（27 内山会員）

お手元に資料を配付させて頂きましたが、ここに記載してある（2）と（3）について説明させて頂きます。

(3) 基本高水流量についてですが、10月20日～21日の台風23号については本日もっと聴きたかったデータが出るかと思っていました。浅川における基本高水流量、旧ダム地点で130m³/s、合流点で450m³/sという数値が、実測値でどのように裏付けられるのか。本日出されるかと思っていましたが、あまり出ておりません。

富竹地点の基本高水流量では260m³/s 流れることになっていますが、口頭での本日の説明で44m³/s 弱ということで、もしそれが正しいとすれば基本高水の1/5以下の値にしかならない。

平成7年7月のデータによると、この時の雨量は今回よりもっと多く、100年確率を上回るだけの雨量があったが、ダム地点、富竹地点での流量は半分以下であった。

2年前の6月に、長野県治水・利水ダム等検討委員会(以下「宮地委員会」という)から、治水・利水の答申が出され、その時には浅川については、ダムなしで「基本高水流量330m³/s」を答申しました。

しかし、当時の県は、基本高水流量330m³/s という数値を採らないで、450m³/s のままで現在まで奔ってきています。

2年前の6月、県は大きな判断ミス、大きな過ちをした。と私は思っています。ですから、改めて450m³/s ではなく、330m³/s が正しいかどうか、450m³/s が過大なのかどうか、全面的に洗い直すべきだろう。そして、そのデータが今回の台風による大雨と流量によって裏付けられるはずであると思っています。

(2)の代替案についてお話しします。前回の流域協議会において、県からコンサルタントが作ったものだというので、河道外遊水地を含み、河道内遊水地を主とする6つの代替案が出されました。コンサルタントの作ったものを流域協議会へ丸投げの形で出てきました。

この6つの代替案にはいずれも大きな誤魔化しがある。代替案 ~ までありますが、が一番堤高が高く「49.5m」になっています。

ところが基礎地盤での標高で見ると、浅川ダム計画の基礎標高は「513.0m」であったが、これに対して河道内遊水地のケース での基礎標高は「517.5m」である。何故ここで「4.5m」も上がってしまうのか。その説明が一切ありません。地質調査も行われておりません。ダム地点は更に4.5mもダムの基礎を上げて建設できるのか。また、6つの代替案(河道内遊水地)というのは、全て穴の位置と大きさこそ違いますが、旧浅川ダムと全く同じ、穴あき自然調節方式のダムです。それを、河道内遊水地というおかしな言葉を発明して、皆さんを誑かしている。河道内遊水地は、穴の大きさと位置が違うだけの治水ダムであると、はっきり県は認めるべきであると思います。

いずれも6つの代替案は全てダム案です。一体、県の出している「脱ダム」政策、或いは宮地委員会の出した「ダムなし答申」、こういうものと何処で一致するのか。

宮地委員会の後に、長野県は田中知事が県議会で浅川ダムの中止をはっきり表明しました。浅川ダムは中止になっている筈なのに、何故もう一度ダム案が出てくるのだろうか。しかもダムの高さを誤魔化して住民の目を誑かす様なやり方というのは、これは県がとってはならない態度である。もっと謙虚に正しいデータを出し、正しい計画内容を出して、住民の興味を惹く材料を出すべきだと思います。そうでなければ、浅川流域協議会は、いつまでも同道巡りを繰り返してしまう。私はそう思います。

以上、資料をお読み頂き、質問があれば個人的にして頂ければお答え致します。

・議長（佐藤座長）

皆さんにお諮り致します。今日の終了予定は21時となっておりますが、本日、予定しています流出解析に基づく内容について、意見を直接聞きたいとのことから時間を十分取ってやりたかったわけですが、(1)から(3)に関する質問が多く出され時間が超過してしまいました。

今、山岸会員(3)さんから言われましたが、最初から分散会にしたらどうかとかテーマを絞って議論したらどうかといった会の進め方についての意見が実はございました。これについては、皆さんの議論の中で、全員でやるべきであるということまで進めてきた訳です。

そこで、内水対策或るいは基本高水等その他論点についてテーマを絞ることは出来るかと思えます。そういう問題に今後時間をかけて進めるとなると、やはり分散会方式を執った方が良いのではないかとということも考えられます。

皆さんにお諮りして、次の協議会をどうするかを決めて参りたいと思えます。全体会議で進めていく方がよいか、それともテーマを決めた分散会で集中論議することがよいか、ご意見を頂きたい。

・意見（138 小林会員）

どの様な方法で行っても、反対の同じような意見ばかり繰り返されています。流域のことを考えて一歩でも妥協するような意見が出るのであればよいが、一方的な意見ばかり言っていて、これでは何回やっても無駄であると思う。

・議長（佐藤座長）

では、どうすればよいとお思いでしょうか。分散会という意見でしょうか。

・再意見（138 小林会員）

だから、もう少し歩み寄って頂かねばダメです。

・議長（佐藤座長）

分散会の方がよいという意見でしょうか。

・再々意見（138 小林会員）

分散会で行っても同じだ。もう少し理解し合い両方で折り合うならよいが、初めから11回目まで同じことの繰り返しのだから。

・議長（佐藤座長）

それは、分散会にした方がよいという意見でしょうか。それとも全体会でいくべきという意見ですか？

・再々々意見（138 小林会員）

してもしなくても同じだと言っている。

(回りで意見あり)

・議長(佐藤座長)

お待ち下さい。これからどうゆう風に議論を進めるか。ということについてご意見をお聞かせ下さい。

・意見(142水品会員)

分散会も一つの方法として有ろうかと思いますが、私が思うには、田中知事がここに来てもらうのが一番よい方法だと思います。

これまでに11回、浅川流域協議会がありましたけれども、一回も未だ顔を出しておりません。「脱ダム」宣言をしたのは田中知事です。「脱ダム」宣言したからには、最後まで責任を持って代替案を出してもらわなければいけない。それが行政の責任者であると私は思います。

・議長(佐藤座長)

知事の出席を求めるといった意見は判りましたが、議論の方法についてお聞かせ下さい。

・再意見(142水品会員)

佐藤座長さんをお願いしたい。浅川流域協議会には田中知事に必ず来てもらう・・・と、そうでなければ流域協議会を開きません。ということをお願いしたい。そうすれば、前に進んでいきます。

・議長(佐藤座長)

ご希望については伝えます。ただ、分散会にするかどうかということ聞いています。

・再々意見(142水品会員)

分散会は必要ない。従来どおり全体会議でよい。(一部から拍手あり)

・意見(会員)

私も、従来どおりで全体会議がよいと思います。僅か十数キロの浅川についての協議会であるのだから、全体で行う方がよいと思います。

・議長(佐藤座長)

はい、判りました。外にはいかがでしょうか。

・意見(4小林会員)

本日はこれで閉会にして頂き、この件については座長さんと座長代理さんの方で検討して頂ければよいと思います。

ただ、ダムの問題については賛成も反対もあるのですから、流域の皆さんがお互いに噛み合うことは全然ありません。ですから、よく膝を突き合わせて話をすれば、お互いの誤解も解けるだろうし、認識も深まるだろうと思う。もう少し和気藹々と話し合える機会を

持たればよいのだらうと思います。

ここでお互いに主張・意見を述べて自分の意見で押し通すということをやっているならば、この会は意味がないと思います。お互いに歩み寄りというより、率直な意見を出し合って、話ができればよい。知事さんが来る来ないに関わらず、流域の皆さんの意見は聞いているのですから、意見を率直に言えばよく、それを取り上げるか上げないかは知事の考え方になるのですから。

・意見（44 関座長代理）

私は、この流域協議会が提言書を出した時点で、県がそれを踏まえた中で代替案を作成し、その上で再度流域協議会を開催するのが筋だと思っていました。だから、正副座長会議でも一貫して県が持たない限りは流域協議会をやる必要はないと私は言っていました。

前回の流域協議会に際して、県から話があったときは非常に嬉しかったです。提言書を踏まえた中で代替案が出来、流域協議会を開いてくれるのだと思っていましたから。ところが、打合せに行くと何もなくて、未だ出来ていない。資料は協議会までに作るとのことでした。内容も判らないのに協議会を開くのは非常に不安で、忙しい中、来て頂く会員の皆さん方にも申し訳が立つかどうか。そんな状況でした。その後、協議会開催の通知が来ました。それを見たら、青山出納長さんが出席されると書いてありまして、非常に嬉しく思いました。これは、県は代替案を作ったということで、知事の代わりに来て、「まあ、この形で流域の皆さん、賛否両論有ろうが是非お願いしたい。」ということで、説明しに来なさるのだらうなと思い期待していました。

ところが、出されたものはコンサルタントに頼んだ6案でした。それを見てガッカリしました。県の皆さん方が態度を示さないのをきつく言いたい。検討委員会、流域協議会で十何回も議論しながらやってきて、それで未だ出せないものは、いつまでやっても出ないということなんです。何回やってもただ、ダム議論に対して唾み合いの溝を深くするだけです。県はハッキリした態度を執って頂きたい。この件に対しては、最初から申し上げているとおり、神様がこうしますと言っても、賛成有り反対がある。だから、専門家の流出解析について県が提示しなければダメなんです。それが行政の責任だと私は思います。

また、浅川の問題は千曲川と関連し、切っても切れない関係がある。いくらポンプを増設しても千曲川の水位が上がったらポンプが稼働出来なくなってしまう。浅川の特異性として、遊水地は絶対必要である。上流や中流でも痛みを分かち合い、下流でも我慢する。私はダムなんか有っても無くてもいいから、流域の安心安全を第一にやって貰えればよい。今回だって農地に被害が出たが、もう一寸雨が降っていれば、豊野町は全部浸水ですよ。これを踏まえたならば、もっと遊水地についても考えて頂きたいと思います。

次回、流域協議会を開催するのも、県が代替案を作成した時点であり、この時が知事さんの出番だと思っています。それまで、知事さんや出納長さんは来なくてもいいのです。大物の役者はそれなりの舞台の中で出て来て頂きたい。代替案を持って出て来て頂きたいと思います。

・議長（佐藤座長）

皆様には、大変、時間が超過してしまって申し訳ございません。今日の会議はこれで閉会とさせていただきます。

次回のことにつきましては、座長代理と座長に任せて頂きますか。
会議の持ち方等につきましても、三人で協議の上、皆さんに御通知申し上げます。

・意見（23 米山会員）

毎回、前回の（議事要旨等）資料を頂くのですが、会議の日ではなく、事前に目を通して来れるように、次の協議会の1週間か10日位前に配れるような方法を講じてもらえるようにご検討をお願いしたい。

・議長（佐藤座長）

努力致しますが、不可能に近いので承知して下さい。

・意見（104 北沢会員）

座長代理の意見にもあった様に、県の代替案が出ないといくらやっても意味がない。県が代替案を出して頂き、それを諮ってもらいたい。

地元の浅川地区では県に対し、上流での土砂対策として、砂防堰堤の要望を行っている。県議会へも要望し、採択したとの通知が来たが、県の方からは未だ回答がありません。だから・・・いずれにしても県の代替案が出ないと意味がない。以上。

・議長（佐藤座長）

ご意見は承って置きます。

・議長（佐藤座長）

大変予定をオーバーし、長時間に亘りました。第11回浅川流域協議会は、これで閉じたいと思います。皆さんからの御意見をそれぞれお聞きしたのを基にしまして、座長代理、座長協議致しまして、皆さんに御通知申し上げます。どうぞよろしく申し上げます。大変ご苦労さまでした。

午後21時22分終了